

# 実践研究報告書

## － 現代の国語における『水の東西』の授業 －

柳澤 瑞希  
教科領域コース

### 1. 研究の目的及び方法

#### (1) 研究の目的

近年、日本の若者は諸外国と比べて、自己を肯定的に捉えている者の割合が低いことが指摘されている（注1）。私はこの変化の激しい時代にも、自他のよさを認め、心豊かに生きることができる生徒を育てたいと考えている。そのためには、実社会に必要な国語力を生徒に身に付けさせる必要がある。そこで、高等学校の国語科では、どのような授業が考えられるのか明らかにすることを、本研究の目的とした。

#### (2) 方法

国語科内容総合研究で行った教材研究と、教科領域実習Ⅱで行った授業実践における課題を踏まえ、先行研究（注2・注3）、各種資料（注4・注5・注6）、助言等を参考として、新設科目である現代の国語における評論教材『水の東西』による授業を通して、生徒にどのような力を身につけさせることができるのかを検討した。

### 2. 主な学習活動と評価について（改善案）

改善案は、6単位時間の想定で指導案を作成した。以降にその主な学習活動の内容を示す。第1次では、これまでの学習や読書経験を振り返り、説得力の高い論理的な文章の特徴について全体で話し合い、『水の東西』と共通のテーマを取り上げた短い文章Ⅰ及びⅡの主張と論拠をノートに整理する。その内容を基に、それぞれの主張と論拠との関係に対し、そのように言える理由と共通点について理解する。その際、論理の妥当性も検討する。第2次では、教材文を読み、主張と論拠、文章の構成や論理の展開をワークシートに記入する。その記述を基に本文を200字程度で要約する。第3次では、グループで互いの要約を読み、気づいたことを述べ合う。その際、推論の妥当性も考えるように指導を行う。その内容を全体で発表し、共有する。最後に、単元全体を通じた学習の振り返りを行い、文章の要旨を把握する上で必要な留意点等を理解し、自ら考えを深めるように促す。

次に、この活動の評価方法について示す。[知識・技能] ①は、第1次に記述の点検を行う。具体的には、ノートを回収して確認する。論理的な文章の中から主張と論拠を示す表現を区別し、それらの関係についての的確に理解しているかどうかを点検する。第2次には、[思考・判断・表現] ①の評価として、記述の点検を行う。具体的には、ワークシートとノートを確認し、総合的に判断する。論理的な文章の内容や構成、論理の展開などについての的確に捉えて要約しているかどうかを点検する。その際、要約文が上手く書けているかどうかだけで判断しないように留意する。第3次には、[主体的に学習に取り組む態度] ①の評価として記述の分析を行う。具体的には、振り返りシート

を確認する。論理的な文章の内容や構成、論理の展開などについて妥当性を検討し、より説得力のある文章となるように考え、自らの学習を調整して活動に取り組んでいるかどうかを分析する。

### 3. 研究の結果及び考察

『水の東西』は、日本文化論や日常の事例を挙げて対比の使い方を実践するような評論文入門教材としての扱いをねらいとしている訳ではないということがわかった。その上で、現代の国語における『水の東西』の授業では、論理的な文章の構成を読み取り、その推論の妥当性について検討する活動が想定できるということが明らかになった。私はこの結果を踏まえ、生徒が授業を通して身に付けた「演繹的な推論」を使い、実社会や学校生活の場面で論理的に考え、根拠や理由付けの蓋然性を高めるように改善し、主体的・対話的に自分の思いや考えを広げ、深めることができるように指導することが求められていると考察した。

### 4. 今後の課題

生徒が身に付けた「演繹的な推論」を活かせる場面の検討が今後の課題である。

光野（令和4年）は、高校生が「演繹的な推論」を意識的に使うことができるようにするための指導として、「今まで「国語表現」等の「話すこと」「書くこと」において表現してきた自己の論証を振り返らせ、その中の推論の妥当性を検討させていくことになる。そして、蓋然性が低い要素があったなら、必要に応じて裏づけとさらなる推論を構築させていくような授業が必要になってくる」と具体例も交えて述べている。他にも、特別活動における生徒会活動等も例として示されている。

具体的に、どのような取り組みができるのかということの検討と、例として示されている他に、どのような場面で活かせるのかということについては、実践の中で今後の課題として検討していく。

---

#### 【注】

(1) 内閣府『令和元年版 子供・若者白書（概要版）特集1 日本の若者意識の現状～国際比較からみえてくるもの～』平成18年3月制定 令和5年1月更新

(2) 松井萌々子『「水の東西」採録史 ―いつからどのように定番教材化したのか―』全国大学国語教育学会国語科教育研究：大会研究発表要旨集、令和3年5月29日発行、p.181-184

(3) 光野 公司郎『「現代の国語」「論理国語」における『水の東西』指導の可能性：推論指導を中核とした論理的な文章指導の在り方』数研国語通信つれづれ37号、令和4年5月発行、p2-7

(4) 中央教育審議会『「令和日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）【概要】』令和3年1月26日

(5) 文部科学省 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 国語』教育課程研究センター、令和3年8月、p.53～68

(6) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」平成28年12月21日、p.124

※教材は、東京書籍発行『精選現代の国語』（教科書番号：2/東書/現国702）

令和4年2月10日発行、p.50-56 によった。